



2021 September

No.589

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療

患者の人權と意思を尊重します

診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

地域包括ケア

地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成

地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

がんと診断されたらがん治療チームで支援します！



ハイパーサーミア外来



カンファレンス風景



相談の様子

9月のがん征圧月間（主催：日本対がん協会、日本医師会）でした。当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されています。これは「がん治療の均てん化」を目指すために国が指定するものです。つまり、全国どこにいても、人吉・球磨やえびの・伊佐を含む近隣地域でも、当院にて標準的ながん治療が受けられるということです。

当院は、専門の医師や看護師を中心に、最新の医療機器・設備なども揃え、手術や放射線、化学療法、ハイパーサーミア、緩和ケアなどの治療を提供しています。さらに、それら治療を安心して受けられるように、多くの医療チームが患者さんやご家族をサポートしています。がんに関わるチームは、手術や化学療法、放射線治療などに加え、緩和ケアや口腔ケア、栄養、薬剤、治験、感染対策、医療安全など様々な領域で連携しながら活動しています。そこでは、医師や看護師、各認定看護師、栄養士、薬剤師、臨床工学士、検査技師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、臨床心理士などが、実際の治療・療養支援はもちろん、熊本県がん診療連携協議会や地域機関との各種会議、研修会開催など地域活動を通じて、広域で対応できるように連携も図っています。

これからも地域のがん診療の質向上に向けて、皆で日々研鑽に努めて参ります。治療や療養に関する質問、悩み、ご希望など各スタッフへもお気軽にお声かけください。



がん相談支援センター

ご相談の窓口としては、「がん相談支援センター」や「患者サポートセンター」もご利用いただけます。がん治療の情報や受診相談、心理・社会的問題に関しては、がん専門相談員が上記の専門職、各チームと協力しながら、受療に向けてのサポートをさせていただきます。

医療福祉連携室・がん相談支援センター 南 秀明

【相談窓口】1階問診カウンター横 がん相談支援センター

【開設時間】8:30～17:15

救急医療功労者表彰

9月9日（木曜日）、令和3年度救急医療功労者・優良看護職員熊本県知事表彰式がホテル熊本テルサにて行われ、救急医療功労者として当院を含む2団体、優良看護職員として個人13名が表彰されました。

当院はこれまで救急応需率100%を目指し、年間平均7000人の救急患者を受け入れていることに加え、県境圏からの積極的な患者受け入れが評価されたとのことです。

式では出席した全団体、個人が知事より表彰状を授与され、出席者を代表して当院木村院長が「これまでの当院の取り組みを評価いただき、光栄なことであるし、職員のモチベーションも上がる。帰ったら早速職員に報告したい」と謝辞を述べました。

帰院後は早速全職員に報告がなされ、喜びを分かち合うとともに、身が引き締まる思いで表彰状を眺めていました。

医事課 課長 中川 貴夫



最新の研究（RRI モデル）による防災対策

令和2年7月豪雨から一年が経過致しました。当時を振り返り、水害に対する今後の防災体制の強化として、災害時の招集体制の見直しや防水板の設置訓練等を実施し、今年の大雨時には訓練に従いスムーズに対応を行うことができました。

一方で、台風を含めた大雨に対する備えはさらに進めていく必要があります。そこで、今回、最先端の研究を行っている京都大学防災研究所及び清水建設の共同研究チームとテレビ会議を行い、最新の防災情報予測技術や水害対策について情報交換を行いました。会議では、公開されている気象・警報等の情報（気象庁キキクル）や防災情報（河川水位やダム放流量のリアルタイム情報）をより有効に活用する方法や、京都大学が現在開発中の最新の防災情報予測技術（これまでよりも早期かつ高精度な河川水位や浸水状況の予測が可能なモデル＝RRIモデル）について話を伺いました。

今後も現在公開されている防災情報やタイムラインの活用と対策についてより一層の充実化を図るとともに、将来的には、

関係機関の協力を得ながら、RRIモデルのデータ等様々な情報を活用して万全の防災・減災体制を整え、災害に強い病院を目指していきます。

参考情報：

国土交通省 川の防災情報

<https://www.river.go.jp/index>

気象庁 キキクル

○全国版ページ

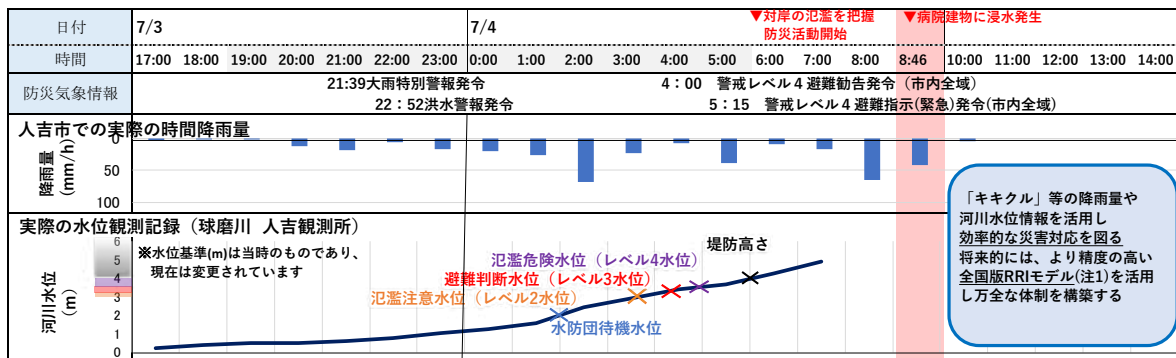
https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=rain_level&area_type=japan&area_code=010000

○人吉市にズームしたページ

https://www.jma.go.jp/bosai/#area_type=class20s&area_code=4320300&pattern=rain_level

医療福祉連携室 野々上 真一

令和2年7月豪雨時の時間降雨量と球磨川水位の状況



「キキクル」等の降雨量や河川水位情報を活用し、効率的な災害対応を図る。将来的には、より精度の高い全国版RRIモデル(注1)を活用し万全な体制を構築する。

出張出前講座

2021年8月25日に山江村 村内介護支援専門員連絡会において「専門職として知っておくべき認知症譲渡その対応」とのテーマで講義を行わせていただきました。

参加者は山江村の介護支援専門員等、福祉サービスに従事されている10名ほどの方でした。

内容は認知症の基本的な知識について、認知症の重症度別の特徴と対応方法について、認知症のBPSDでよくみられる症状とその対応方法について、スライドを使用してお話させていただきました。また事例を2例紹介し、当院の認知症ケアチームやスタッフがどう対応しているか、また地域連携の重要性についてなどをお話ししました。

皆さん熱心にうなずきながら聞いていただき、とてもやりやすかったです。

講義の後は参加していただいた皆様と情報交換をさせていただきました。高齢化が進み、老々介護、認認介護、認知症の人の独居などが増えてきている現状がありました。また、認知症の診断はないのですが、明らかに認知症があると思われる人の受診につなげるにはどうすれば良いかなど、日々悩みながら仕



事をしてられる現状もありました。このような問題は決して他人ごとではなく、認知症ケアチームが介入する患者さんにも同じような方が多くおられます。今後、地域で支えていくべき問題であると痛感しました。講義をさせていただいたうえに、多くの学びを得ることができ、心より感謝いたします。

認知症認定看護師 山口 幸恵

地域連携「緩和ケア研修会」をWebにて開催しました。

新型コロナウイルスの影響により、昨年度は開催できておりませんでしたが、8月25日、地域の医師や看護師など様々な職種の方に参加いただき、今年度第1回目となる地域連携「緩和ケア研修会」を開催しました。

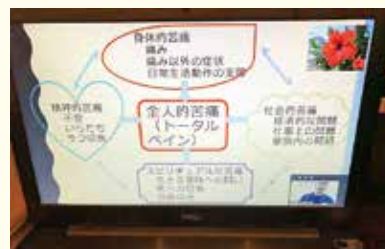
当院では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会禁止が余儀なくされ、それに伴い、在宅療養や在宅看取りを希望される患者さんが増えています。しかし、在宅では、医療資源が限られるため、診療上の工夫や新しい生活様式に応じた配慮も求められます。

今回は、「4つの痛みを意識しよう！」とのテーマで、当院の渡邊龍太郎緩和・在宅医療部長より講話を行いました。4つの痛みとは、身体的な痛み、社会的な痛み、心理的な痛み、スピリチュアルな痛みを指します。“患者”、“医師”としての診療上の関わりはもちろん、人と人として、その患者さんが大切

にしている過ごし方や生き方、また、その患者さんを支える家族の力を支える一助として、4つの痛みを意識する、このことが今後の支援に繋がりますと幸いです。

今後も、各月テーマに沿って地域連携「緩和ケア研修会」を開催予定です。医療機関や施設職員の方を対象としたご案内にはなりますが、ご興味のある方は是非ご参加ください。

医療福祉連携室 鶴田 真奈美



臨床研修医挨拶



済生会熊本病院から来ました、研修医2年目の眞鍋笙之介（しんのすけ）と申します。8月中旬から10月中旬までの約2か月間、済生会では経験出来ない小児科および産婦人科を研修させていただく予定です。外病院での慣れない勤務で何かとご迷惑をお掛けすると思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。現在小児科研修3週目でこの記事を書いているのですが、あらゆる事が新鮮で充実した日々を送らせて頂いております。

プロフィールを簡単にお話しますと、出身は熊本市で、中高は長崎の青雲学園で6年間の寮生活を経た後に地元の熊本大学へ戻りました。高校時代に柔道をしていたこともあり、体格が良いねとよく言われます。趣味はバドミントンで、大学の部活

ももっぱらバドミントンをしていました。好きな物は「後腹膜の解剖」です。変態だとよく言われます。ロボット支援下の手術に興味があり、将来は泌尿器科に進もうと考えています。

人吉医療センターには3年前の大学の実習で3週間お世話になり、済生会の研修コースにも選択肢があったため今回研修先として希望しました。水害前の風景は臍にしか記憶出ていませんが、コロナ禍もあって大変な状況ながらも、球磨川沿いの飲食店や旅館等が徐々に営業再開している様子からは復興の光を垣間見ている様な気がします。ご時世柄の行動に合わせてつつ、研修期間中に少しでも多く利用出来れば医療面に加えて地域貢献が出来るかなと考えています。

以上、簡単ですがご挨拶とさせていただきます。2か月間と短期間ではありますが、どうぞご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

済生会熊本病院 臨床研修医 眞鍋 笙之介

新人研修

～ INARS 心停止を回避するために～

INARS とは、心停止を回避するために体系的アプローチを用いて「評価・認識・行動」を繰り返し行うことで、患者の状態変化に気づき、状態安定化のための行動を学ぶことができるコースです。

当院は8名のINARSインストラクターが在籍しています。私が以前INARSを受講した際、心停止を回避するための観察視点と行動を学び、臨床の現場に近い研修内容に感銘を受け、INARSインストラクターの資格を取得しました。そして、専門的な知識の向上と効果的なプレゼンテーションを学んだことで、新人教育に活かすことができている。

新人教育の中には、観察技法としてINARS研修があります。今回、令和3年7月20日と8月13日に19名の新人が参加し、講義・実技・ディスカッションしながら、「何が問題でどう対応すべきか？」を常にチームで考え、心停止を回避するため



の行動を学びました。

また、INARSプロバイダーコースも当院で開催し、看護の質の向上につなげています。

一昨年よりコロナ禍で地域の病院や施設へINARS研修が開催できない状況ですが、これからも地域に貢献できる看護師の育成を目指して、取り組んでいきます。

INARSインストラクター 9階病棟 福田奈美

JCHO コンプライアンス研修会開催

独立行政法人地域医療機能推進機構コンプライアンス推進規定第7条に基づき、令和3年度JCHOコンプライアンス研修会が院内3階講堂において開催され9月14日に参加しました。今回も昨年同様コロナ禍に伴い、「密を避け全員参加」を目指し、9月～10月にかけて3回／日、計10日間の日程で開催しております。

コンプライアンス研修は倫理面における質の確保・向上への取り組みとして毎年定期的に開催し、組織の体制強化と周知を

図ることを目的としております。主な内容としまして、法令の遵守、社内規定やマニュアルの遵守、個人情報の適切な取り扱いなどについて、事例を通して理解を深める内容でした。

医療機関においては業務上、日常的に患者様と関わり個人情報に触れることになります。院内で定められている規定やマニュアルを定期的な研修等を通じてしっかりと振り返り周知し、病院の信用・信頼に繋がられるよう、自らが誠実に謙虚に日々の業務に取り組んでいかなければならないと改めて再認識させられる機会となりました。

医療福祉連携室 野々上 真一

コロナ禍で運動不足になっていませんか？～適度な運動を心掛けましょう～

朝晩は涼しくなり秋らしさを感じるこの頃。夏は暑く、コロナウイルスも気になりなかなか外出もできず運動不足になっていませんか？

ウォーキング、サイクリングなどの有酸素運動は高血圧、糖尿病、脂質異常症など多くの生活習慣病や動脈硬化の予防、改善に効果があることが証明されています。小分けにしてもよいので1日合計30～60分、最低でも2日に1回、できる方は毎日行うことが推奨されています。

ウォーキングは適したフォーム、適した負荷でおこなうとより安全に、効率的に行うことができます。必ず運動前後での軽い体操、水分補給を行い、フォームは図を参考に無理のない範囲で行ってください。負荷が弱すぎると運動としての効率が悪く、強すぎると有酸素運動ではなくなってしまいます。

そこで運動する際は息切れをせず、「楽～ややきつい」と感じる程度、人と話しながらでも続けられる程度で行うことが目安とされています。体力がついてくると同じ運動でも疲れにくくなりますので徐々に負荷の強さを調整することも大事です。

基礎疾患をお持ちの方も主治医に相談しながら有酸素運動を実施してみたいかがでしょうか。

理学療法士 森下 耕靖



メンタルヘルス研修開催

9月10日、今年度入職の新人看護師を対象に、メンタルヘルス研修を行いました。

入職後5ヶ月を経た彼らは、できる手技や任される業務も増えてきました。一方、遅出や夜勤など、新しい勤務形態の導入も予定され、不安や緊張感が生じていることも推測されました。そこで、メンタルヘルスについての簡単な動画を視聴し、その後、グループワークにてそれぞれの悩みを聞いたり、話し



たり、自分自身の成長を同期と共に味わいました。

今回は、時間短縮での開催となりましたが、同期と過ごした一時が今後の看護師としての歩を支える体験となりましたら幸いです。

医療福祉連携室 鶴田 真奈美

救急救命士の就業前病院実習を終えて

この度の救急救命士の就業前病院実習に際しまして、下川副院長をはじめご指導いただきました先生方、スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

救急救命研修所で学んだ知識と技術を臨床の現場で実践し、様々な経験をすることで救急救命士として質の高い救急業務を行えるようになることを目標とし実習に臨みました。

実習では院内の処置や検査を見学及び実践することで、救急搬送された傷病者がどのような経過をたどっていくのか理解を深めることが出来ました。その中で、情報収集と並行して治療を進めていることを知り、救急隊がプレホスピタルの段階で情報収集することの重要性を強く感じました。救急隊の情報収集、伝達技術の向上を図ることで院内での円滑かつ迅速な治療が可

能となり、傷病者に質の高い医療を提供することに繋がるはずです。医療機関側との共通認識を持って今後の救急業務に当たっていきます。

また、特定行為については、患者様の協力を頂きながら生体を実施するという経験を多く積ませてもらいました。先生方、看護師の皆様にご経験をお寄せいただき貴重なアドバイスを頂きながら実践することで、自分の手技が向上していくのを実感できました。

この20日間の実習で学んだことを救急現場活動で活かし、地域住民の安心安全を守るため日々精進して参りたいと思います。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

人吉下球磨消防組合 救急救命士 藤本 舜也

特別臨床実習 - 地域医療 -

今回、人吉医療センターにて3週間地域医療実習をさせていただきました。初日は緊張していたのですが、総合診療科の先生方をはじめ、多くの医療スタッフの方々が優しく丁寧に教えてくださり、充実した3週間を過ごさせていただきました。また、研修医の先生方と人吉医療センターでの研修や研修する先の病院に関しての考え方について多くのことを教えていただき、今後についてとても参考になりました。

地域医療実習ということで主に総合診療科・救急外来、訪問看護・訪問診療、五木村診療所で実習させていただきました。どの実習でも診察や手技などを実践的に学ばせていただき、良い経験となりました。

総合診療科では主に問診・診察、患者さんとのコミュニケーション、病棟管理や薬の調整の考え方などを学びました。大学では各診療科の疾患ベースで何人かの医師で患者さんの病気を治療している印象ですが、人吉医療センターの総合診療科では様々な疾患の1人の患者さんを基本的に総合診療科で治療し、必要に応じて各診療科の先生にコンサルトするという形式で患者さんに合わせた柔軟な医療を行っていると感じました。また、患者さんの病気を治すことのみが目標ではなく、事前のADLや家族の介護の状況などを考慮し、治療の方針や転院・退

院の調整をされていたのが印象的でした。

訪問看護・訪問診療では実際に医師や看護師の方々と一緒に患者さんのお宅に伺い、ケアの仕方や調整を学びました。コロナウイルス状況下における訪問診療の重要性が叫ばれる中、実際の現場を見学できたことは貴重な経験となりました。

五木村診療所では実際に診察をさせていただき、患者さんの話を聞いて、治療の必要性がある場合は人吉医療センターなどの病院を紹介するというような地域医療の流れを学びました。診療所の診察と大学病院のような大きな病院での専門性の高い診察は役割が異なるということはとても興味深く、その場に応じた診察・問診、検査のオーダーができるようになりたいと感じました。また、問診や診察で重大な症状を見逃さない能力も重要ですが、自分の診療能力や診療所という限られた状況を加味して、その場で治療できないということを見極める能力も重要であるということを感じました。

3週間という短い間でしたが、将来、地域医療に関わりたいたいと考えている私にとって、充実した実習生活を送ることができました。先生方をはじめ、病院スタッフの方々に、心より感謝申し上げます。

熊本大学医学部医学科5年 大川内 健将

始めましょう セルフチェック(自己触診) ～10月はピンクリボン月間です～

ピンクリボンとは、乳がんについて正しい知識を広め、検診やセルフチェック(自己触診)など、乳がんの早期発見・早期治療の大切さを伝える活動の世界規模のシンボルマークです。当院も毎年10月は、乳がんのセルフチェックについての啓発活動や乳がん術後の入浴着への理解を深めるための啓発活動をおこなっています。

女性の3人にひとりのがんになり、そのうち9人ひとりの女性は乳がんになると言われていますが、定期的にセルフチェックをおこなうことで、小さなしこりや変化に気が付くことができるようになります。

多くの芸能人の方が自身の乳がん体験を語り、啓発活動に取

り組まれるのも、乳がんの早期発見、早期治療の大切さを経験されているからだと考えます。

「ピンクリボンフェスティバルサイト <https://www.pinkribbonfestival.jp/>」では、10月1日よりゲストに歌手の太田裕美さんを迎え、著名な先生方のシンポジウムが配信されます。また、10月15日からはアイドルグループ「乃木坂46」のキャプテンの秋元真夏さんをゲストに若い世代に向けた乳がんの正しい知識を伝えるピンクリボンセミナーが配信される予定です。

「まだ若いから」ではなく、「若いうちから」セルフチェックを始めましょう！

医療福祉連携室 岡本 理恵

連携施設 探訪

当院では、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は、「小規模多機能ホームなごみの里（〒868-0083 人吉市下林町大字大島 103）」さんです。

小規模多機能ホーム なごみの里 Vol.43

【対象者】

要支援1.2または要介護1～5の認定を受け、人吉市内にお住まいの方

【サービスの内容】

通い・・・時間や曜日は利用者それぞれの生活状況に応じて必要な時に必要な分だけ調整致します。緊急時にも臨機応変に対応致します。

宿泊・・・必要な時に通い慣れた環境でご宿泊いただけます。お部屋の空き状況にもよりますが突然の泊まりにも対応致します。

訪問・・・必要な時、必要な量に応じて自宅への訪問サービスを提供致します。緊急時にも柔軟に対応致します。

【地域の皆様に一言】

私達の、小規模多機能ホームなごみの里も13年目を迎えております。2年目より実施してきた、夏祭りも昨年・今年とコロナウィルス感染症の影響でできませんでした。利用者さん方も認知症がある方ばかりなのですが、祭りの時は4～5日前から飾り

に使う花を折ったり、てるてる坊主を作ったりと準備をスタッフと一緒にやってもらうので、なんとなくきうきうしています。そんな姿をいつまでも見たいなと思うのですが・・・。

なごみの里では、季節の行事やさくらや紅葉見物など、お弁当を持って出掛けたりもします。敷地にある畑で、野菜の植え付け見物やお手伝いをしていただき、収穫した野菜は食卓に上り、美味しく食べています。

また、私どもは「ふれあい事業」を行っています。地域の縁側というものがあありますが、それに泊まりができるものが「ふれあい事業」です。介護保険がなくても、他の事業所を利用されている方でも利用できます。自費になります。普段は自宅に居るのだけれど、急に家族が出掛けなくてはならなくなり、食事や夜一人で家で過ごすのは心配という方など利用されています。日にちはずれますが、月に2～3人の利用があることもあります。まずはご相談ください。

【お問い合わせ】

TEL0966-22-7877 FAX0966-22-7892

施設長 末川 とみ子

YES でもいい。NO でもいい。あなたの意思を表示しよう。



10月16日は、家族や大切な人と「移植」のこと、「いのち」のことを話し合い、お互いの臓器提供に関する意思を確認する記念日「グリーンリボンデー」です。（1997年10月16日に臓器移植法が施行）

グリーンリボンは、世界的な移植医療のシンボルです。グリーンは成長と新しいいのちを意味し、“Gift of life”（いのちの贈りもの）によって結ばれた臓器提供者（ドナー）と移植が必要な患者さん（レシピエント）のいのちのつながりを表現しています。

グリーンリボンキャンペーンは、移植医療を通して、臓器を提供してもいいという人と移植を受けたい人が結ばれ、よりたくさんのいのちが救われる社会の実現に向けた、『移植医療』の“理解促進”、“普及”、及び“啓発”につながる取り組みの

総称です。10月16日は、家族や大切な人と「移植」のこと、「いのち」のことを話し合い、お互いの臓器提供に関する意思を確認されてみてはいかがでしょうか。このキャンペーンが、あなたやあなたのご家族、大切な方と、いのちのことや、臓器移植について話すきっかけになることを願っています。

グリーンリボン検定にLet's チャレンジ！

合格者には合格証とピンバッジがプレゼントされます。



(<https://www.green-ribbon.jp/Quiz/greenribbontest/>)

医療福祉連携室 杉松 紗織

新 任 紹 介



坂本 淑乃（臨床検査部・臨床検査技師）

趣味：映画、ドラマ鑑賞

自分の性格：明るく、やるべきことはやる性格です。時々ネガティブになってしまうことが短所です。

自分のコマーシャル：未熟者ですが精いっぱい頑張ります。よろしくお願ひします。最初は人見知りですが、慣れたらたくさん喋ります。



田原 貴代（療養介助員・5階病棟）

モットー：「なるようになる」

自分の性格：誠実ですが、せっかちなところがあります

自分のコマーシャル：初めての職種で不安なことも多いですが、一つ一つを確実に覚え、自信をもって業務ができるよう頑張りたいと

思います。よろしくお願ひいたします。

【お詫びと訂正】

8月号の記載ミスにつきまして

広報誌「翔」8月号3ページの「人吉・球磨で推定される前立腺がん罹患患者数」に、問い合わせ電話番号に誤りがございました。ここに訂正させていただきますとともに、ご迷惑をお掛けいたしましたことをお詫び申し上げます。

（誤）Tel：0922-22-7070

（正）Tel：0966-22-7070